



学校だよりNO44

令和4年 3月11日

児童数 473人

薫っ子



文責 校長 古川 次男

あれから 11年が経ちました

平成23年3月11日（金）14時46分。東日本大震災が発生しました。長時間にわたる大きな揺れの中で、「とんでもないことがおきた。」と、誰しもが感じた瞬間でした。あれから、まる11年。奇しくも、あの時と同じ中学校の卒業式が行われる金曜日を迎えました。

本県は、地震による被害とともに、その後発生した東京電力原子力発電所の事故で、今も復興の途上にある地域があります。それを考えると、とても、大きな災害であったことが改めて思い知らされます。

「3. 11 福島追悼復興記念行事」として、福島県知事よりメッセージが届いておりますので、以下に紹介いたします。

東日本大震災と原発事故から 11 年が経ちました。県内を横断する道路の全線開通、日本酒の金賞受賞数連続日本一更新の快挙、県産トップブランド米「福、笑い」の本格デビュー、農産物輸出力が過去最多を記録するなど、復興に向けた光がまた一つ力強さを増しています。しかし、今なお故郷（ふるさと）を離れ、苦しい思いをしている多くの方々があります。国内外からの福島への印象が変わっていない現実に直面することもあります。県民の皆さんひとりひとりに、この1年にも様々なことがあっただろうと思いを巡らします。

（中略）

昨年夏の東京オリンピック・パラリンピック。無観客での開催となり、多くの皆さんを福島に迎えることができず、福島の現在地を感じていただくチャンスを失ってしまったことは、本当に悔しく思っています。一方で、復興への想いを灯した聖火は、原発事故収束対応の最前線の拠点となっていた「ヴィレッジ」を出発し、県内各地を巡り、東京・国立競技場では、浪江町で産まれた水素を燃料として、選手の皆さんの健闘を祈り、世界中を希望の光で照らしました。福島・あづま球場では、野球・ソフトボール競技の日本代表選手たちが躍動し、全試合に勝利を収めて金メダルへの大きな足がかりとなりました。海外の選手・スタッフの皆さんからは、福島のおいしさやおもてなしへの称賛の声をいただきました。大会のレガシーを次なる交流につなげ、大きく育んでいきたいと考えています。

（中略）

世界は今、SDGs という 17 個の共通目標を掲げて、次の世代に持続可能な社会を引き継ぐ取り組みに力を入れています。未曾有の複合災害という逆境を全力で乗り越え、かけがえのないふるさとを取り戻し、未来の世代にしっかり引き継いでいく私たちの取り組みは、SDGs の理念を具現化したものと言えます。私は、福島県が独自に取り組む 18 番目の目標として「福島復興」を掲げ、世界への貢献にも通じることを、福島からの希望のメッセージとして伝えていきたいと考えます。

未来を見つめ、次の世代を担う若者・子どもたちと共に、「ふくしまプライド。」をつなぎながら、必ずや成し遂げることができると信じ、すべての県民の皆さんと力強く挑戦を続け、一歩ずつ、一歩ずつ、復興の歩みを更に進めていくことを、ここに誓います。